

➤ **第 1 層生活支援コーディネーターの主な業務**

- ・第 2 層協議体が実施するニーズと課題を抽出する検討会の運営をサポートする。
- ・市、社会福祉協議会と連携し、第 1 層協議体の協議事項等の検討を行う。
- ・支え合い活動団体の活動を周知・広報する。

➤ **活動内容**

【各地区助け合い協議会ヒアリング】

設置済の地区助け合い協議会の活動状況や課題の把握を随時実施。未設置の地区に関しても立ち上げる際の課題や現状を把握することで立ち上げに向けたサポートを実施。

【各地区助け合い協議会への参加】

平成 30 年度、新たに設置された立根地区、綾里地区、末崎地区に関しては各地区のアドバイザーや役員として参加。越喜来地区においては、設立準備委員会へ参加し設置に向けたサポートを行った。また、日頃市地区、越喜来地区では地域の支え合いを進めるための情報提供として登壇し、お話しした。

【大船渡市地域助け合い創出研究会】

第 3 回においては講師の紹介、調整などを行い、地域包括ケア推進室と協力して当日の実施に至った。

【勉強会の実施】

山口県防府市 健康福祉部 高齢福祉課主幹 中村一朗氏を招いて、総合事業の活用についての勉強会を実施。市地域包括ケア推進室を中心とした関係部署や、大船渡市社会福祉協議会にお声掛けし、参加していただいた。

【他団体との連携】

市、NPO 法人大船渡共生まちづくりの会、公益財団法人さわやか福祉財団と連携し定期的な情報共有や打ち合わせを実施。

【各会議への参加】

主任介護支援専門員打ち合わせ会、地域連携連絡会議へ参加。他職種との交流を図りながら地域が求める大船渡に必要な資源、専門職が求める地域に必要な資源の相互理解に繋げることができるよう情報収集した。

【支え合い活動団体の活動周知】

フェイスブック等で地区協議体の活動を随時周知。

➤ **1 年を終えての所感**

・平成 30 年度は、地区協議体との関係性構築を重点的に行ってきたが、特定の地区には課題検討会のサポートにも関わることが出来たので、今後は関わることが出来る協議体を増やし、地区協議体が次のステップへ移行できるようサポートしたい。

・地区の特定の担い手に行政の様々な部署から話が行くので、受ける側の負担は大きい。市役所内でも地区に対してどのようにアプローチしていくか他部署と協議していく必要がある。

➤ 今後の課題

- ・第 1 層協議体における協議内容や方法について、より活発な議論になるような仕組みづくりが必要。
- ・地区協議体が実施するサロン活動の取組から、住民同士の支え合い活動へ繋げるための方策を検討する。
- ・地域ケア個別会議等で出された専門職からの意見と地区協議体からの意見を共有できる場を作る必要がある。